

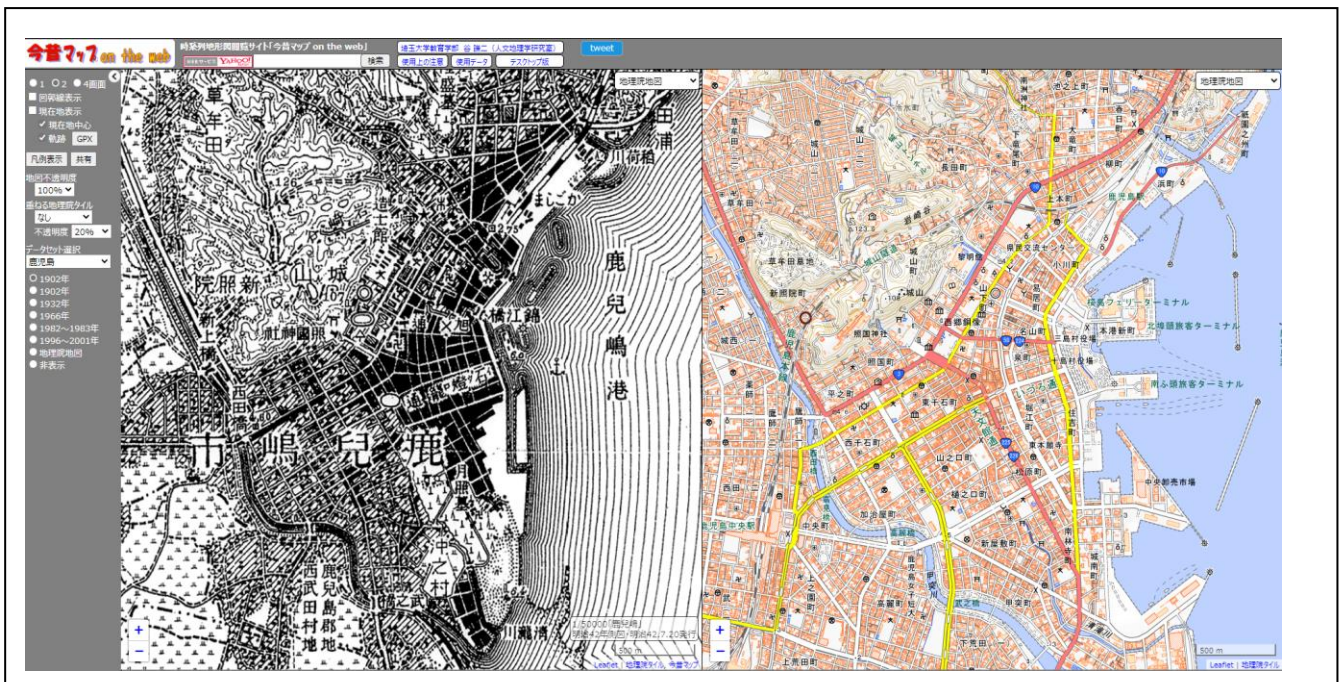
令和元年10月の或る日、野崎理事長より電話があり、野崎丹斐太郎の京都での住所を調べてほしいと、依頼がありました。

この時、かなり時間を頂くようお願いしました。というのは、以前既に気になって京都の住所を調べたことがあったのですが、野崎丹斐太郎からの手紙さえ発見できていませんでした。尚且つ野崎丹斐太郎が生まれたのは、明治25年(1892)です。これまで野崎家を調査した多くの先生方は、野崎武吉郎までは調べていますが、明治40年以降は、ほとんど手付かずの状態でした。

早速本腰を入れ、再度目録一覧表を引っ張り出して書類蔵や主屋などで、手紙を調べましたが、まったく出てきませんでした。

そこで探す場所を変えるのと、鹿児島県の第七高等学校(鶴丸城址の旧校地は鹿児島県歴史資料センター黎明館)から京都大学へ入学した事と、高野清雄(高野竹隠)先生が家庭教師として付き添っていた事から、高野先生の手紙を探すことにしました。

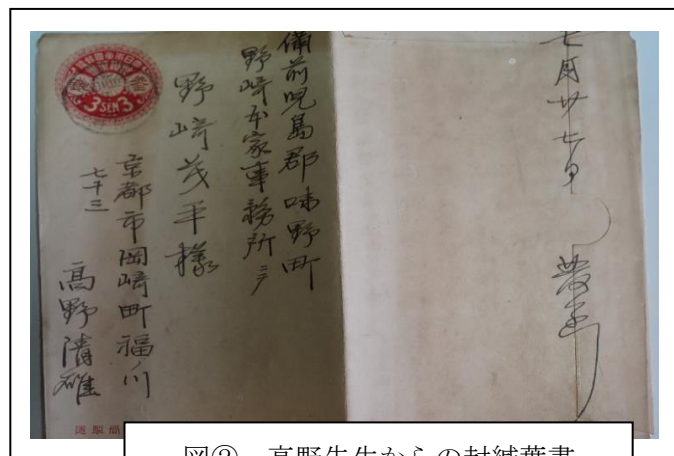
高野先生からの手紙は、事務所2階や仏間付近から出てきました。高野先生の鹿児島の住所は図④「鹿児島市西千石町二百四十七番戸」封筒に印刷されていました。



図①明治35年と現在の鹿児島市内

図②「封緘葉書」

備前児島郡味野町
野崎本家事務所ニテ
野崎茂平様
京都市岡崎町福ノ川七十三
高野清雄
消印大正 5.7.27 聖護院



図② 高野先生からの封緘葉書

拝啓 酷暑ニ御座候処 . . .
 階子様御結婚前何カト御多忙に被為在 . . .
 廿四日前八時十分岡山発ニテ后二時四十七分京都に安.着友人-
 ノ世話ニテ借入置候表記ノ家ニトモカクモ直チニ着仕候
 荷物ハ已に着通運会社ニ保管至居リ今日受取り申筈ニ
 坐処家ガアマリニ狭ク且東西の建造ニテ朝日ト夕日トノ直射
 ノ為メ炎熱耐へ難ク荷物ノ置キ場所ニモ困リ朝夕必需品
 ノ外ハ縄付ノママニテ積ミ置申他ニ適當ノ家ヲ求メ居
 リ候旁ニテ入洛以来混雑仕今ニ落着キ不之長途熱ヲ
 冒シテ旅行仕為メ妻ハ多少ノ疲身ヲ免レズ小生ハ旅行中
 ヨリ以上ノ〇〇ヲ感ジ申御一笑〇〇いづれ今月中ニハ落着
 為致奉敬居候

. . .

図③「封書」

備前児島郡味野町
 野崎本家事務所ニテ
 野崎茂平様 親展
 消印大正 5.8.18

裏面

(鹿児島住所を消して)

京都市新烏丸通上ノ切通上ル東ル

高野清雄

拝啓 過日ハ葉書被下難有拝見仕候炎暑中御一行様
 御疲労もあらせられず御帰邸被為成愈御健安被為渡候
 御由奉発賀候 御留洛中ハ御多忙ニも拘はらず特ニ御来訪
 被下美菓御恵投被下難有奉佩致候

. . .

図③「封書」

備前児島郡味野町
 野崎本家事務所ニテ
 野崎茂平様
 大正 5 年 9 月 10 日
 鹿児島市西千石町二百四十七番戸
 高野清雄

. . .

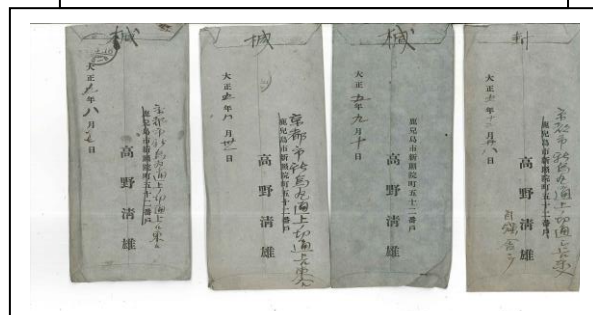
最後に

野崎茂平様

自強舎ノ番地七十三と申上候ハ二ノ誤ニ御坐此ニ訂正仕候



図③ 高野先生からの手紙 (表)



図④ 高野先生からの手紙 (裏)

図③ 「封書」

大正5年十二月廿八日

京都市新烏丸通上ノ切通シ上ニ東入

高野清雄

自強舎ニテ

・・・

此地昨夜ヨリ雪フリ朝来モヤマズ約一尺ホド積リ申一昨来
寒気骨ヲ刺シ申六年間薩南ノ気候ニ慣レ候レ小生共ニハ
一入感じ申貴地如何廿六日ニ津山モ雪フリ候由友人ヨリ申シ
来リ候ドコモ寒キト相見ヘ申

時下御自堂奉社候家長御初御令聞様へも宜ク

御鳳○願上候

清雄 自強舎ニ於テ

野崎茂平様

上記の様な手紙より高野先生は、京都市新烏丸通上ノ切通上ル東入ルの自強舎に住んでいるのが判るが、野崎丹斐太郎が何処に住んでいるのか判らない。

たちまち行き詰ってしまいました。いよいよ三秀館を、調査しないと！

他に何か無いか、もう一度書類蔵を調べた。

図⑤ 仮 1 家政記録その他

(46. 野崎丹斐太郎結婚に関する記録)

1. 京都ニ於ケル挙式記録 第一巻

第三 結婚式前諸準備

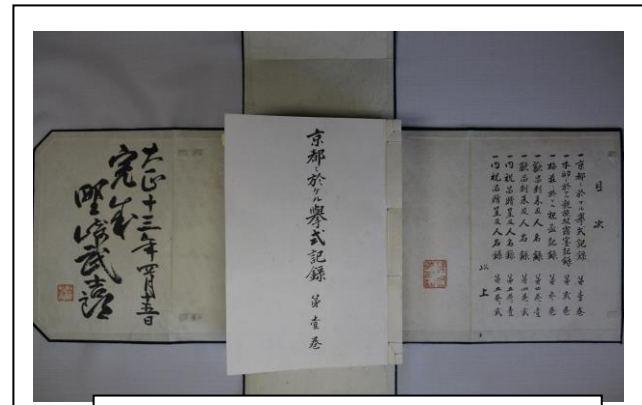
結婚式ハ大正十一年十二月十日午後三時京都岡崎
なる平安神宮ニ於テ挙行シ結婚式終了後祇園
中村楼ニ於テ披露祝宴を開クことに決定シ一切
の交渉準備を京都赤尾半左衛門に依頼して

凡て取運バシむ

神前結婚式ニ平安神宮所定の方式ニ依りて
行いるべく、披露宴の料理献立ハ図⑥中村楼ニ任せ唯
焼物代リニ純銀製静海盆（菓子器）を用ふる
こととし赤尾をして京都村田治左衛門ニ命じて
調製せしむ

従来ノ自強舎（丹斐太郎 寓居）ハ手狭ニテ諸
事不便なるを以て十一月十四日五条坂の新居ニ移轉
し且電話の架設をも為せり

・・・

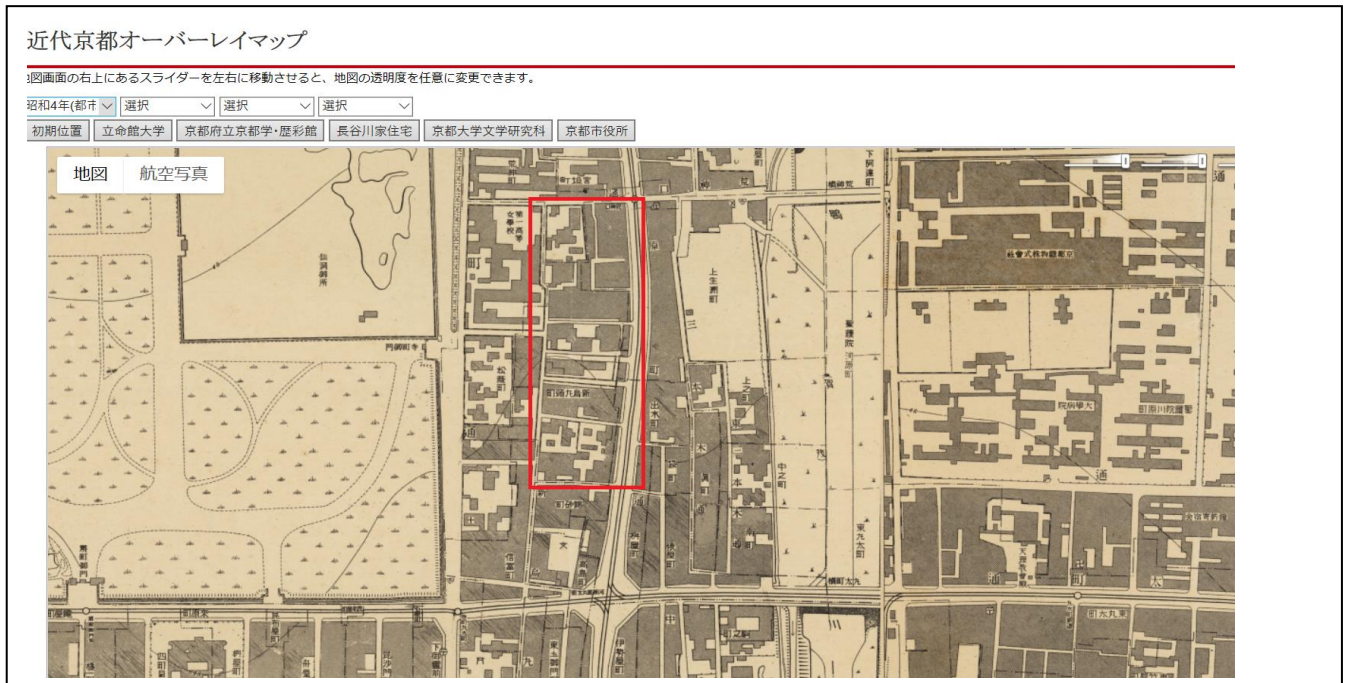


図⑤ 仮 1 家政記録その他
野崎丹斐太郎結婚に関する記録



図⑥ 京都市東山区祇園町 八坂神社鳥居内
中村楼

これより丹斐太郎は自強舎に住んでいたことと、大正十一年十一月十四日には五条坂の新居に移転した事が、分った。



図⑦ 京都市昭和4年

※参考文献資料

- 野崎家文書仮目録その1 内海塩業株式会社社史編纂委員会 昭和39年
- 野崎家文書仮目録その2 (書類蔵の書棚のうち1階左奥のもの 平成4年大山更青)
- 野崎家文書仮目録その3 (書類蔵2階の棚上に置かれた柳行李、竹籠、木箱類で 主に大正期の書簡 平成5年大山更青)
- 野崎家文書仮目録その4 (内蔵収蔵の書籍 平成9年大山更青)
- 事務所二階書類仮目録その2 (平成11年大山更青)

図① 明治35年と現在の児島市内 (埼玉大学教育学部 谷謙二教授 今昔マップより)

図②～⑤公益財団法人 竜王会館所蔵資料

図⑤仮1 家政記録その他 (46. 野崎丹斐太郎結婚に関する記録)

図⑥ 京都市東山区祇園町 八坂神社鳥居内 中村楼 ホームページより

図⑦ 近代京都オーバーレイマップ (立命館大学アート・リサーチセンター) Webシステム

明治25年・大正元年・大正11年・昭和4年・昭和10年・昭和28年) 4つの深度を自由に換えられるシステム。

手紙のよみくだし 大山更青